

令和元年度の管理運営状況(有明テニスの森公園テニス施設)

指定管理者:有明テニス・マネージメントチーム

| 大項目 | 中項目 | 確認項目 | 特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等 |
|-----------------|---|---------------------|---|
| 管理状況 | ① 適切な管理の履行 | 施設・設備の保守点検 | <ul style="list-style-type: none"> 8月末の施設引渡し後、1か月足らずでテニス国際大会が開催されたが、新規設備の運用に万全を期すため、時間のない中、設備把握及びマニュアル整備と設備操作の習熟訓練を繰返し実施した。コロシアム屋根開閉、照明、空調、音響、大型モニター等の設備運用においてヒューマンエラー防止の徹底を図り、大会運営に支障を与えることなく確実な運用を行った。 昨秋の台風や大雨で度々冠水した箇所の排水機能改善工事を東京都に協議のうえ実施した。 |
| | | 施設の提供について | <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、東京都の改修工事及び東京2020大会に向けた組織委員会の改修工事のため、開館期間は9月中旬から12月末までの3か月半であったが、この間、コロシアム、ショーコート、屋外コート9面(9月中旬から10月中旬は6面)の施設提供を行った。 9月中旬より施設を再開し、11月中旬まで「テニス国際大会」や「東京2020大会テストイベント」等、大規模テニス大会を開催したが、年初から主催者と調整を重ねるとともに、新規施設及び改修後施設での円滑な大会運営に努めた結果、いずれの大会も成功裏に終わらせることができた。 「楽天ジャパンオープン」では、世界No.1のノバク・ジョコビッチ選手他、トップ選手を迎えて、約10万3千人の利用があり、過去最高の来場者数を記録した。 「東京2020大会テストイベント」として開催された「全日本テニス選手権」では、約2万6千人の利用があった。準備段階から組織委員会及び日本テニス協会と綿密な調整を行い、全面的な協力を図った。 ショーコートをメイン会場に開催した「安藤証券オープン」では約6千2百人の利用があった。 「UNIQLO チャリティテニスマッチ」では、ロジャー・フェデラー選手、錦織圭選手、車いすテニスの国枝慎吾選手等をコロシアムに迎え、約8千3百人の利用があった。 再開後、世界のトップ選手であるジョコビッチ及びフェデラーがオリンピックを視野に入れてコロシアムでプレーをしたことで、来場した選手、観客ともに東京2020大会への機運が大いに高まった。 管理運営基準に基づき、有明コロシアム、ショーコート、屋外テニスコートの大会利用について優先受付を実施。18大会の調整を行い、10大会に対して適正に減免措置を行った。 |
| | ② 法令等の遵守 | 個人情報保護の取組 | <ul style="list-style-type: none"> 全スタッフを対象に疑似ウイルスによる標的型メールに対応した「情報セキュリティ緊急時対応訓練」やセキュリティ担当部署による社内全端末のアクセス等の「情報セキュリティ自主検査」を実施した。 全スタッフにeラーニング「情報セキュリティ研修」を実施し、情報漏洩事故に対する社員の教育、訓練を図った。 「メール送信セキュリティシステム」を導入し、誤送信等による情報漏洩の予防を図った。 |
| | ③ 安全性の確保 | 防災への配慮・緊急時対策 | <ul style="list-style-type: none"> 消防計画に基づく「自衛消防訓練」を実施した。来館者の避難誘導訓練、火災報知器や消火栓等の消防設備の操作習熟訓練、負傷者の応急救護訓練等の実地訓練を実施した。 安否確認システムにより、「社員の安否、被災状況について携帯電話から自動収集する訓練」を実施した。発災時のスタッフ参集を迅速に図るため情報連絡体制を確認した。 大型台風の接近時には、被害が最小限に留まるよう事前対策を行うとともに不測の事態に備えてスタッフを宿直させ、公園及び施設の保全と利用者の安全確保に努めた。 |
| | ④ 適切な財産管理 | 物品の管理 | <ul style="list-style-type: none"> 改修工事後に調達した貴賓室や待合スペースの椅子、机、審判台(座面)等の備品について、都が推進する多摩産材を使用した木工備品を積極的に導入した。 テニス大会に必要なテニス備品、レストラン厨房設備、会議室什器について、主催者と協議を重ね、施設引渡しから大会まで1か月足らずであったが適切に配備しニーズに応えた。 |
| 事業効果 | ⑤ 状況利用 | 利用状況 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者数は、全体で約15万3千7百人(団体利用:約15万1千人、個人利用:約2千7百人)であった。開館期間中も都改修工事が継続していたが、<u>昨年の利用者数約3万7百人と比べて大幅な利用増となった。</u> |
| | ⑥ 事業の取組 | スポーツ振興事業及び自主事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興事業の充実策として、「キッズ&ジュニアテニスカーニバル(10月)」と「東京都知事杯有明チームテニスコンペティション(12月)」を計画どおり実施した。 「キッズ&ジュニアテニスカーニバル」は、新たに親子レッスンを新設するなど内容の充実を図った。(約220人参加。雨天のため開始後まもなく中止。) 「東京都知事杯有明チームテニスコンペティション」は、新たな充実策としてミックス・トリプル(男女混合、1チーム3~6人で編成するチーム戦)を採用し、シニア層でもテニスの試合を十分楽しめる大会として開催した。(24チーム、約140人参加。) テニスの日イベントの際、「スポーツフェスタ」を同時開催した。施設の再開を周知し、一般利用を呼びかけるとともに、各種体験型プログラムを用意することで気軽にスポーツに触れ合えることができる機会を提供し、スポーツ実施率の向上に努めた。 「1Dayフェスティバル」及び「ソーシャルテニス大会」を計画どおり実施。生涯スポーツとしてのテニスの普及促進を図った。 |
| | | 利用者ニーズの把握・利用者の満足度 | <ul style="list-style-type: none"> (公財)日本テニス協会と利用者懇談会を開催し、改修工事後の施設運営及び大規模テニス大会の開催に関する意見交換を行いニーズの把握を行った。 一般利用者の満足度について、「清掃状況」や「スタッフの対応」に9割を超える満足度が示された。一方、新規施設の利用案内が不足しているとの声が寄せられたため、速やかに館内サインを追加で整備し、施設案内の充実を図った。 |
| その他(大規模工事への対応等) | <ul style="list-style-type: none"> 施設再開後も公園西側で都施工工事(インドアコート、屋外コート他)が継続していたが、都担当者とは絶えず連絡調整を図ることで、来園者の安全を確保し、施設の提供を行うことができた。 新規施設の工事瑕疵による不具合(屋根雨漏り等)に関して、発見の都度、都及び施工者に報告、相談を行い、利用者に影響を与えないよう早期是正を行った。 組織委員会の仮設オーバーレイ工事が1月より開始。都及び組織委員会と調整のうえ地域住民に情報提供を行うとともに当社主催による関係者会議を毎週開催し、情報共有及び課題調整を積極的に進め、円滑な工事実施のため協力を図った。 東京2020大会の運営に関し、業務役割分担、防火防災管理、諸室及び備品利用、清掃等、組織委員会と緊密な連携体制を構築し、大会の円滑実施に寄与すべく継続的な調整を進めた。 | | |

【作成上の注意事項】

- ・挙げさせていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPIに掲載します。